

2022年10月25日

報道関係各位

三菱地所株式会社
下地島エアポートマネジメント株式会社

沖縄県・宮古島市において環境保全活動を実施 ～ビーチの保全に加え、サシバの森をつくる植樹活動を始動～

三菱地所株式会社（以下、「三菱地所」）及び下地島エアポートマネジメント株式会社（以下、「下地島エアポートマネジメント」）は、宮古島エリアの豊かな自然環境を守るため、2018年7月より環境保全活動を進めております。今般コロナ禍を経て3年ぶりに、宮古島市、公益財団法人日本自然保護協会、NPO法人宮古島 海の環境ネットワーク等と協力して、2022年10月20日（木）～21日（金）に環境保全活動を行い、三菱地所グループ社員約60名が参加しました。また今回は「大丸有SDGs ACT5」※とも連携しお申込みいただいた大手町・丸の内・有楽町エリアの就業者6名にもご参加いただきました。

① ビーチの清掃活動

宮古島市の最大の観光資源であるビーチは、隆起サンゴ礁植生が発達する優れた風景地ですが、プラスチックごみなどの漂着物の増加が問題視されており、その保全が急務となっています。そのためNPO法人宮古島 海の環境ネットワークの指導のもと、10月20日（木）及び21日（金）の2日間、下地島と宮古島のビーチにおいて清掃活動を行いました。

② サシバの森づくり活動

「宮古島市の鳥」でもあるタカ科の仲間「サシバ」は、里山の生態系の頂点に位置し、生物多様性豊かな里山の指標種です。また、渡り鳥であるサシバは、春に越冬地である東南アジアから日本に渡来し、本州の里山で繁殖期を過ごした後、秋に宮古諸島を経由して渡去しますが、近年、繁殖地である里山の荒廃、宮古諸島を含む中継地の森林減少、越冬地の密猟などが原因で数を減らし、絶滅危惧種に指定されています。宮古諸島では、1980年代に約5万羽確認されていましたが、2021年には6千羽にまで減少し、渡りの途中で休息できる森林の減少が大きな課題になっています。

今回、宮古島市の協力を得て、公益財団法人日本自然保護協会、宮古野鳥の会、宮古森林組合の指導のもと、10月20日（木）、宮古諸島の伊良部島にて、約600㎡の区域に250本のテリハボクの植樹活動を行いました。植樹をおこなった場所は、「世界の侵略的外来種ワースト100」（国際自然保護連合）にも挙げられている「ギンネム」が密生していましたが、今後、リュウキュウマツなど違う樹種の植樹も行ない、サシバが安心して休息できる生物多様性豊かな自然環境の再生を目指します。尚、宮古島市有地において、民間事業者が、サシバの保全を目的とした森づくりを行うのは、初めての取り組みとなります。

沖縄県宮古島市では、三菱地所のグループ会社である下地島エアポートマネジメントが2019年3月より、みやこ下地島空港の旅客ターミナル施設を運営しています。三菱地所グループは今後も、宮古島の地域経済の発展とともに、エリアの観光資源でもある豊かな自然環境の保全に貢献してまいります。



▲ビーチ清掃の様子（宮古島高野漁港）



▲サシバの森づくり活動の様子（伊良部島）



▲サシバ（撮影：仲地邦博）

■今回の環境保全活動について

日 時：2022年10月20日（木）～21日（金）

開催場所：沖縄県宮古島市

内 容：①ビーチの清掃活動（2022年10月20日、21日）
②サシバの森づくり活動（2022年10月20日）
③環境研修会（2022年10月20日）

参加者：三菱地所グループ社員など 約60名

協力：宮古島市、公益財団法人日本自然保護協会、
NPO 法人宮古島 海の環境ネットワーク、
宮古森林組合、大丸有 SDGs ACT5 実行委員会



▲宮古島高野漁港（左：清掃前、右：清掃後）

■活動の様子



▲ビーチ清掃の様子（下地島の海岸「ピサラブー」）



▲ビーチ清掃の様子（下地島の海岸「ピサラブー」）



▲サシバの森づくり活動の様子（伊良部島）



▲ビーチ清掃の様子（宮古島高野漁港）



▲サシバの森づくり活動の様子（伊良部島）



▲環境研修会の様子

※「大丸有 SDGs ACT5」について

今回の環境保全活動は、大手町・丸の内・有楽町エリア（以下、「大丸有エリア」）を起点に SDGs 達成に向けた活動を推進する「大丸有 SDGs ACT5」の 1 テーマである「環境」と連携し、お申込みをいただいた大丸有エリアの就業者にも参加いただきました。

大丸有 SDGs ACT5 とは、東京駅前、大手町・丸の内・有楽町地区（以下、「大丸有エリア」）を起点として、大丸有エリア内外の企業・団体が連携し、SDGs 達成に向けた活動を推進するプロジェクトとして、2020 年に始動した取組です。

総合デベロッパーである三菱地所、地域の一次生産者を支える金融機関である農林中央金庫、日本を代表する経済メディアである日本経済新聞社ら複数の企業、団体が実行委員会を組成し、お互いの持つ様々なリソースを持ち寄り、具体的なアクションの創出を目指しています。

2022 年は「サステナブルフード」「環境」「WELL-BEING」「ダイバーシティ&インクルージョン」「コミュニケーション」の 5 つの ACT（テーマ）を設定し、各アクションの実践、効果の検証、そして社会課題の構造的な問題を明らかにすることをミッションとしています。

- ・大丸有 SDGs ACT5 公式サイト：<https://act-5.jp>
- ・2022 年度プレスリリース：https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec220427_ACT5.pdf

【実行委員会構成企業・団体】

三菱地所（委員長）、農林中央金庫（副委員長）、日本経済新聞社（副委員長）、日経BP、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、大丸有エリアマネジメント協会、大丸有環境共生型まちづくり推進協会、丸の内熱供給、三菱総合研究所、東京国際フォーラム



【参考】みやこ下地島空港について

<施設概要>

開業日：2019年3月30日

所在地：沖縄県宮古島市伊良部字佐和田 1727

敷地面積：32,586 m²

延床面積：12,027 m²

規模・構造：RC造 一部鉄骨造及び木造（CLT）

地下1階地上2階（旅客エリアは地上1階のみ）

主要施設：チェックインカウンター数 12 箇所、搭乗ゲート 3 箇所、
到着ロビー 国際線・国内線各 1 箇所、飲食店 3 店舗、物販店 3 店舗（免税店含む）、
バス乗り場、タクシー乗り場、ATM、
レンタカー受付カウンター、レンタカー受け渡し場・洗車場



<「空港から、リゾート、はじまる。」をコンセプトとした空間づくり>

キーコンセプトを「空港から、リゾート、はじまる。」と掲げ、空港利用者や航空会社の視点に立った施設づくりに取り組んでいます。空港に到着した瞬間にリゾート体験のはじまりを感じてもらえるよう、豊かな緑や自然の光を取り込み、航空機への搭乗直前まで利用者がくつろげる空間を演出しています。国際線を受け入れる専用施設を設け、スムーズな入国・出国動線を確認する等、利用者の動線を意識した設計となっており、使い勝手の良さを追求しています。

以上